生野区 防災マップ

2025年3月版

編集/発行：生野区役所 地域まちづくり課

大雨・台風の予報がでたら

雨や台風の多い季節は、事前の備えで安全確保しよう。

早めにできること

みぞのそうじ

たおれそうな物を片づける

ガラスが割れて飛び散らないようにする

飛ばされそうな物を片づける

大事なものを上階へうつす

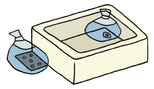
停電・断水に備える

急いでやること

自転車やバイクを固定し転倒を防ぐ

浸水を防ぐため土のうを置く

排水溝の逆流を防ぐために水のうを置く



気象庁から、前線による大雨の予報や台風の進路など、詳細な情報が発信されます。
雨が降り出す前にできること、やっておくべきことを知り、被害のないよう対策しておこう！

大雨や台風でも自宅避難できるように備えよう！

知っとこ

大雨が降ると下水管に雨水が流れ込み、家庭内の下水が流れにくくなったり、逆流する恐れがあるので、大雨時にはお風呂や洗濯機などの排水を控えよう！

グラグラッ 地震だ！ 自分の身体と命を守ることが最優先！

机やテーブルの下にもぐり、しっかり身を守る

机がない場合は、①②③等をしてケガを防ごう。

①頭を守る

②姿勢を低くする

③固定されたものにつかまる

火には近づかない
震度５相当以上で都市ガスは火が消えるしくみ。
揺れが収まるまでは動かない。

お風呂から出ようとしない
慌てて動くと転んでケガをすることも。
お風呂のふたや洗面器で頭や体を守ろう。

エレベーターは使わない
閉じ込められる可能性も。
乗っている時は全ての階のボタンを押し開いた階でおりること。

ケガをしないよう落ち着こう

揺れが収まったら、情報をとる
テレビ・ラジオ・スマートフォンなどで「何が起こったのか」「このあと余震はあるのか」など情報をとろう。

家族の無事を確認
大規模な災害時は、一般電話の通話が制限される。家族や友人との連絡方法を決めておこう。

自宅の被害を確認
自宅は住み続けられるのか、すぐに避難が必要な状態なのかを確認。

避難するかしないか、判断
自宅が無事なら「自宅避難」、住めない状況ならば「避難所」や「知人や親戚宅」へ。

災害伝言ダイヤル **171**
「171」をダイヤルし、ガイダンスにしたがって伝言を録音・再生ができるサービス。
災害時に活用できる連絡方法のひとつ。

足元は危険！家の中でも靴をはこう

家を出る時にガスの元栓 OFF ブレーカー OFF を確認しよう

自宅が無事 → 自宅避難
自宅が住めない → 「避難所」や「知人や親戚宅」へ

災害時の頼れる人たち 生野区地域防災リーダーを紹介します

「自分たちのまちは自分たちで守る」という自主防災意識のもとに防災活動の中核を担うため、認定された方々です。

総勢約700人

女性の防災リーダー（あじさいパートナー）もたくさん活動しています

災害を想定した訓練や災害時の避難所のルールづくり等を区役所から任されています

災害時に中心となって活動を行う、避難所の指揮官です

◆地域防災リーダーの成り立ち

1995年1月17日 阪神淡路大震災	1996年7月 地域防災リーダー組織化	現　在
災害時に地域住民が協力し、災害を防止、軽減、予防する、住民による自主的な地域防災活動の重要性が再認識された。		市内33・4連合町会で組織され、約9,200人の方々が活動。 生野区では19連合町会で、約700人の方々が活動。そのうち約300人・4割は女性が参加している。

◆地域防災リーダーの主な活動内容

（１）防災リーダー研修　初期消火救出活動など、災害時に必要な知識や機器操作の習得
（２）災害想定訓練　自主防災組織、行政、関係機関が連携した災害時の避難所開設運営訓練
（３）啓発活動　地域における災害の予防又は防止（減災）に関する学習会などの開催

◆地域防災リーダーの活動イメージ

◆生野区ジュニア災害リーダー（JDL）

中学生などを対象とした、ジュニア災害リーダー（JDL）メンバーも防災リーダーと一緒に活動しています。

火災からいのちを守る

4つの習慣　火災の発生を防ぐために、次の4つの習慣を守ろう

寝たばこは絶対にしない、させない

ストーブの周りに燃えやすいものを置かない

コンロを使うときは火のそばを離れない

コンセントはほこりを清掃し、不必要なプラグは抜く

6つの習慣　万一火災が発生しても、被害をおさえ命を守るために、日ごろから次の6つの対策をとろう

出火防止
火災の発生を防ぐために、ストーブやコンロ等は安全装置のついた機器を使用する

延焼拡大防止
火災の拡大を防ぐために、部屋を整理整頓し、寝具、衣類及びカーテンは、防炎品を使用する

早期覚知
火災の早期発見のために、住宅用火災警報器を定期的に点検し、10年を目安に交換する

初期消火
火災を小さいうちに消すために、消火器等を設置し、使いかたを確認しておく

早期避難
高齢者や身体の不自由な人は、避難経路と避難方法を常に確保し、備えておく

助け合い
防火防災訓練への参加、個別訪問などにより、地域ぐるみの防火対策を行う

政府広報オンライン（住宅火災からいのちを守る10のポイント、「逃げ遅れ」を防ぐために）（https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201603/3.html）を加工して作成

知っとこ 電気火災対策には、感震ブレーカーが効果的です

内閣府HPより抜粋

感震ブレーカーは、地震発生時に設定値以上の揺れを感知したときに、ブレーカーやコンセントなどの電気を自動的に止める器具です。感震ブレーカーの設置は、不在時やブレーカーを切って避難する余裕がない場合に電気火災を防止する有効な手段です。

災害に負けない“そなえ”をしよう

災害はいつ起こるかわかりません。家や街が壊れ、電気やガス、水など生活に必要なものが手に入らなくなります。自分と家族の命を守り、命をつなぐために、今できる“そなえ”を進めよう。

知っとこ 「避難所にいかなければ！」と思い込んでいませんか？

災害が起こった時に、自宅で安全が確保できる場合は、『自宅で避難』を考えましょう。
家族だけの生活はプライバシーが保てるだけでなく、衛生管理や感染症予防の徹底がしやすい面もあり、安心した避難生活につながります。

命をまもるそなえ　家具固定・配置替え

近年発生している大きな地震でのケガの原因は、30-50%が「家具類の転倒・落下による」と言われています。自分の身を守るため、安全を確保するため、家具類の固定や配置の見直しをしよう。

◆家具固定の方法(一例)

◆配置替えのポイント

命をつなぐそなえ　備蓄物資

地震により、電気やガス、水道など復旧までに1週間以上要すると考えられます。どう過ごすかを考えておこう。

●水・飲料水、食料・食品
水はひとり1日3リットルを目安に用意。
缶詰など火をつかわずに食べられる品を用意しておくとよいでしょう。また災害時は野菜が不足しがちなので日持ちのする野菜や野菜ジュースの買い置きで対応できます。アレルギー対応食品などはきっちり用意しておこう。

最低3日分、できれば1週間分 × 家族人数

●電気・ガスに代わる物
例えばランタン、カセットコンロなど準備しておくと安心です。

●ローリングストック
普段から少し多めに食材、加工品を買っておき、使ったら使った分だけ新しく買い足していくことで、常に一定量の食料を家に備蓄しておく方法です。

命をつなぐそなえ　地域とつながる

あなたのお住いのエリアの避難所を確認しておく！
避難所は、災害などにより自宅で生活できなくなった場合に、避難生活を送る施設です。
いざという時に備えて場所を確認しておこう。

避難所には、“ひと・もの・情報”が集まってきます！
避難所に届く救援物資は、避難所にいる方だけでなく、自宅避難の方々など被災者に提供されるものです。
日ごろから町会長や地域の方に声をかけるなど、情報や物資をスムーズに受け取れるようなつながりをもっておこう。

避難所では生活ルールや役割分担を守るお互いに協力しあうことが大切
避難所では多くの人と生活するため、避難所運営委員会で決めたルールや役割を守り、“自分たちのことは自分たちで”を基本に、積極的に避難所運営に協力して生活しよう。日ごろから防災会議や訓練など、地域の自主防災活動に参加し、災害時の動き方を理解しておくことも重要。
被害を軽減するためにも互いに協力しあうことが大切です。

命をまもるそなえ　トイレの使い方

災害時トイレの新常識！

地震の後にすぐにはトイレは流さない

たとえ水が流れたとしても、見えないところで汚水管がずれていたりヒビがはいっていれば、たちまち家の中に汚水が流れ出たり、トイレから逆流したりするので気をつけよう！
災害時であってもトイレを我慢するのは無理なので、右のステップ1からステップ4の方法でトイレを使おう。

トイレで使う備品の用意もわすれずに！

ステップ1

便座を上げて、便器の水にかぶせるように一枚目のビニール袋をかける。

ステップ2

便座を下ろし、２枚目のビニール袋は便座をくるむようにかける。

ステップ3

吸水シートを使用前にビニール袋の底に敷く。粉末状の凝固剤は事後に汚物に直接ふりかけて使用する。

ステップ4

トイレ使用後は２枚目のビニール袋をしっかり結んで、所定の場所に保管。※災害時のし尿回収は時間がかかる。

被災地の避難所でのトイレ

既存トイレにはビニール袋をつけて使用し、汚物の処理をきっちり行う。

1週間ほどしてから、仮設トイレが設置されはじめる。管理や掃除は避難者で分担して行う。

トイレカー。被災していない地域からトイレ施設の確保のため派遣されることがある。

もしもの為に、今始めよう 大阪防災アプリ

いざという時のための 国民保護法上の 緊急一時避難施設を掲載

日ごろから使える 気象情報・雨雲レーダー
降水予測や台風進路も閲覧可能になりました。

いろんな人が使いやすい やさしい日本語対応
他にも英語・中国語（簡体字・繁体字）・韓国語を選べるようになりました。

わかりやすく伝えます 防災シグナル
警報等が発令されると色の変化でお知らせします。

迫る危険をプッシュ通知でお知らせ

身を守る防災情報

大阪防災アプリにはこんな機能も！

いざ備えよう　備蓄品
家族構成に合わせた１週間分の備蓄が確認できます。
備蓄品リストを共有したり、買い物のチェックリストを作成できます。

オフラインでも使える！　防災マップ
大雨による浸水想定区域等のハザードマップや避難所一覧、避難所までのルートが確認できます。

市民防災マニュアル
市民防災マニュアルを PDF ファイルで確認できます。
一度表示した資料は保存され、インターネットが使用できないオフラインの状態でも確認できるようになります。

迫る危険をお知らせ　プッシュ通知
大阪市からのお知らせや防災情報をアプリからプッシュ通知でお知らせします。
受け取る通知は設定することができます。

大阪防災アプリ　大阪防災　App Store からダウンロード　Google Play で手に入れよう